

ひと まな  
人はなぜ学ぶのか 3

～なぜ勉強・学習しないといけないのか～

しきつしようがっこうはらまさし  
敷津小学校 原 雅史



じゃあ、どうしたら学校が楽しい場所になるのか。それは勉強時間を楽しむことが、一番良い方法だと思います。というかそれしかないと思います。学校は勉強、学習をすることでいいから。

ただ、そうすると「勉強なんて、楽しくないよ。面白くないよ。」という言葉が聞こえてきそうです。ここで少し言葉の整理をしたいと思います。

べんきよう がくしゆう まなび ちがひ  
「勉強」と「学習、学び」の違い

じつは べんきよう いうことば がくしゆう いうことば ひじょう にて じつは  
実は「勉強」と言う言葉と「学習」と言う言葉は非常によく似ているのですが、実はもともとは全然違う言葉なのです。しかし、今の日本ではどちらも同じような使われ方をしているので、ほとんどの人がごっちゃになっています。

- べんきよう むり なに いみ  
・勉強する：もともとは、「無理に何かをする」という意味です。  
あるいは、ひと むり やり なに いみ  
あるいは、人に無理やり何かをさせるという意味です。
- がくしゆう ちしき ぎじゆつ じぶん  
・学習する：知識や技術を自分のものにすること。  
わからなかったことがわかるように、  
できなかったことができるように、まなびならう  
みずからすすん むちゆう まなぶ  
自ら進んで、夢中になって学ぶこと。

なんと、わたしたちがふだん何気なく使っている「勉強」という言葉には、学ぶ、学習するという意味はないのです。だから、学校で行う国語や算数を学習することを「勉強する」と使うのは、本当は間違っていることになります。

だから、「学校は、何をするといい場所ですか？」という質問に「勉強する場所です」というのではなく「学ぶ場所です」というのが正しい答えとなるわけです。

だから、「勉強が嫌い」というのは、ある意味当たり前なのです。自分がやりたくないことを、他人からいろいろ無理矢理やらされることが好きな人って、あまりいないと思います。

ですので、校長先生もこれから皆さんにいろいろなお話をして、「学び」の好きな子どもになってほしいと思うのですが、「勉強」が好きな子どもを育てるのは少し難しいような気がします。

前回の「とても大切なこと」でもなんでもお話してきましたが、人に言われて行う「勉強」ではなく、自分から進んで行う「学習」が、学校の授業の中心になれば、きっと今までの何倍も学校が楽しくなる、校長先生は信じています。

ただし、いきなりしょうがくせい小学生の皆さんに「学校では先生せんせいに言われて行く勉強べんきょうではなく、  
みずからすすんがくしゅう自ら進んで学習がくしゅうしてください！」と言いっても難むずかしいしいと思おもいます。だから、はじめのうち  
せんせい先生にいろいろ指示しじをされたり、教おしえてえてもらうばかりの勉強べんきょうが中心ちゅうしんになると思おもいます。

でも、最初さいしょは勉強べんきょう中心ちゅうしんであっても構かまわわないのですが、「あれ、この国語こくごのお話はなし、ち  
よっとおもしろいぞ！」とか、「理科りかで勉強べんきょうした虫むしのところは、自分じぶんに合あっていると思おもう  
…」というような内容ないようは、だんだんと自分じぶんから進すすんで学まんだり、家いえでスマホなどで調しらべたり  
する「学がく習しゅう」となおもっていくと思おもいます。

だから、「勉強べんきょう」と「学がく習しゅう」は完全かんぜんに切り離きりせるものでもないんです。コロナウイ  
ルスによる臨時休りんじきゅうこう校こうが終おわって、今いままで通どり学校がっこうが始はじまったならば、ままずはししっかり担たん任にん  
せんせい先生のお話はなしを聞きいて「勉強べんきょう」してくださいい。そしてこのあとの文ぶん章しょうも読よんで、担たん任にん  
せんせい先生こうちようせんせいや校こう長ちよう先生せんせいから色いろ々いろな話はなしを聞きいて、「学まぶ」ことまなぶが好すきな人ひとをめめざしてください  
い！

つづき じかい はなし  
(続きはまた次回にお話します)